

研究論文

カナダ・カルガリー大学教育系大学院学位プログラムの諸特徴

平田 淳*

Some Characteristics of the Graduate Programs of the Faculty of Education of the University of Calgary, Canada

Jun HIRATA*

【要約】カルガリー大学教育系大学院の修士課程は学位論文ベースとコースベースのプログラムがあり、併せて8つの専門領域によって構成されている。そのうち M.Ed.プログラムは3つであり、全てコースベースのプログラムである。博士課程は M.Ed.プログラムが1つ、Ph.D.プログラムが3つ、計4つのプログラムから成っており、全てにおいて学位論文の執筆が修了要件とされている。

【キーワード】カルガリー大学, M.Ed., Ed.D., コースベース修士, 学位論文ベース修士

はじめに

筆者は本誌別稿(平田, 2023b)において、アルバータ州の州都エドモントンにメイン・キャンパスを有するアルバータ大学(University of Alberta)教育系大学院の概要(平田, 2023a)に触れた上で、同大学院の M.Ed.・Ed.D.プログラムのあり様について検討した(平田, 2023b)。本稿では、同じアルバータ州に立地し、Ed.D.プログラムを有する2つの大学のうちのもう一方であるカルガリー大学(University of Calgary)教育系大学院の概要について述べ、その諸特徴について検討していくこととする。

1. カルガリー大学の概要

アルバータ州はアルバータ法(The Alberta Act, 1905, 4-5 Edw. VII, c. 3 (Can.))により1905年にカナダ自治領(Dominion of Canada)に加入することになったが、カルガリー大学の起源はその翌年にまで遡る。即ち、1906年に現在のカルガリー大学の前身である「アルバータ師範学校」(Alberta Normal School, 現在のワークランド教育スクール(Werklund School of Education)の前身)が開学した¹。1945年には「アルバータ大学カルガリー校(University of Alberta at Calgary: UAC)」となったが、カルガリー市民の「分校」に対する失望は大きく、多年に亘るロビー活動の結果、1966年に「大学法」(Universities Act)²がアルバータ州議会において国王の裁可を受けた結果カルガリー大学となり、念願の独立した研究機関としての地位を獲得した。初代学長(President and Vice-Chancellor)には、副総督(Lieutenant Governor)のグラント・マキュワン(Grant MacEwan)により任命されたハーバート・ストーカー・アームストロング(Herbert Stoker Armstrong)が就任した³。

¹ <https://ucalgary.ca/about/our-history> (2022年10月17日採取)。

² 現在のアルバータ州政府の法令カタログには不掲載のため、法令番号等は不明。https://kings-printer.alberta.ca/Laws_Online.cfm (2022年10月17日採取)。

³ <https://asc.ucalgary.ca/university-archive/celebrating-50-years/> (2022年10月18日採取)。

*佐賀大学大学院学校教育学研究科

現在、カルガリー大学には5つのキャンパスがある。即ち、カルガリー市北西部に位置しており14学部中11学部が置かれているメイン・キャンパス、医学系施設の多くが置かれているフットヒルズ・キャンパス (Foothills Campus)、大学院レベルのプログラムが置かれているダウンタウン・キャンパス (Downtown Campus)、獣医学部が置かれているスパイヒル・キャンパス (Spy Hill Campus)、カタールに置かれているドーハ・キャンパス (Doha, Qatar Campus) である⁴。学部は14あり、教養学部 (Faculty of Arts)、カミング医学スクール (Cumming School of Medicine)、建築学スクール (School of Architecture, Planning and Landscape)、大学院学部 (Faculty of Graduate Studies)、ハスケイン・ビジネス・スクール (Haskayne School of Business)、運動学部 (Faculty of Kinesiology)、法学部 (Faculty of Law)、保健学部 (Faculty of Nursing)、シュリック工学スクール (Schulich School of Engineering)、理学部 (Faculty of Science)、ソーシャルワーク学部 (Faculty of Social Work)、獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine)、ワークランド教育スクール (Werklund School of Education) の13学部はカルガリー近郊の4キャンパスに置かれており、ドーハ・キャンパスに保健学部が置かれている⁵。学生数は学部レベルで26,000名超、大学院レベルが6,000名超、計33,000名超であり、アカデミック・スタッフが1,800名超、非アカデミック・スタッフが3,200名超となっており⁶、総合制の大規模大学と言っていいだろう。

2. 大学院の概要

大学院学部のウェブサイト⁷によると、修士課程においては大学全体を通して、「学位論文ベース」(thesis-based, 以下「学位論文ベース修士」)のプログラムと「コースベース」(course-based, 以下「コースベース修士」)のプログラム2つのタイプがある。「学位論文ベース修士」プログラムにおいては調査プロジェクトを実施して修士論文を執筆することになっており、修了後 Ph.D.に進学することも可能となる。コースベース修士は専門職スキルの開発により関心がある者に適したプログラムであり、学士号 (bachelor's degree) 取得後時を経ずに進学する場合と、就業経験を要件とする場合がある⁸。名称としては、従来型の修士号である M.A. (Master of Arts) もあるが、専門領域の名称を冠した学位プログラム、例えば教育系で言えば M.Ed.があり、心理学系で言えば Master of Counselling、工学系なら Master of Engineering、理学系なら Master of Science などがある。多くの M.A.は学位論文ベースのプログラムであるが、経済学の M.A.のようにコースベースのプログラムも少ないながらある。逆に M.A.以外はコースベース修士プログラムかというところというわけでもなく、Master of Science や Master of Laws (LLM) など少なくないプログラムが学位論文ベースになっている。博士については、53 のプログラムのうち Doctor of Business Administration, Doctor of Nursing, Doctor of Education, Doctor of Design の4つだけが専門領域の名称を冠した学位名になっているが、その他はすべて Ph.D.である。なお、博士プログラムは学位論文ベースのプログラムのみである⁹。

入学要件においても大学全体に共通の事項があり、以下の諸点である。即ち、GPA3.0以上、修士の場合は4年制の学士号を取得していることあるいはそれと同等と判断されること、博士の場合修士号取得が要件とされる場合がほとんどであること、英語が第一言語ではない場合、TOEFL (Test of English a Foreign Language) や IELTS (International English Language Testing System) などの英語能力判定試験で所

⁴ <https://ucalgary.ca/about/our-campuses> (2022年10月18日採取)。

⁵ <https://ucalgary.ca/about/our-organization/faculties> (2022年10月18日採取)。

⁶ <https://ucalgary.ca/sites/default/files/UCalgaryFactSheet2021.pdf> (2022年10月18日採取)。

⁷ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/understanding-graduate-studies> (2022年10月21日採取)。

⁸ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/understanding-graduate-studies> (2023年1月4日採取)。

⁹ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/explore-programs> (2023年1月4日採取)。

定の点数をクリアしていることが求められる。例えば TOEFL の場合は、IBT で 86 点（20 点未満のセクションがあってはならない）、紙媒体で 560 点であり、IELTS の場合はアカデミック・バージョンで 6.5 以上（6.0 未満のセクションがあってはならない）とされる。カナダ・アカデミック英語テスト（Canadian Academic English Language test: CAEL）では 70 点（60 点未満のセクションがあってはならない）、アカデミック・コミュニケーション・サーティフィケート（Academic Communication Certificate: ACC）では各コース B+とされている。申請書類としては、成績証明書（Transcripts）、研究計画書（Study Proposal）、履歴書（Curriculum vitae）、推薦書、標準テストのスコア、等である。これら大学院学部によって設定された入学要件は全学に共通の最低要件であって、各プログラムが個別により高い点数を設定したり、その他の要件を求めたりする場合もある¹⁰。

表 1 は、通常の大学院プログラムの授業料一覧である。但し、プログラムによってはこれと異なる授業料を設定している場合があり、その場合はそちらが該当する。因みにカルガリー大学の教育学部に相当する「ワークランド教育スクール」大学院プログラムの授業料は別に設定されているため、本稿が対象とする M.Ed.及び Ed.D.プログラムの授業料はそちらが該当する。ここでは、まず全学的な大学院の授業料を概観したうえで、教育系大学院プログラムの授業料を見ていくこととする。

	Canadian/Permanent Residents		International Students	
	Admitted to begin May 2020 or later	Students admitted to begin prior to May 2020*	Admitted to begin May 2020 or later	Students admitted to begin prior to May 2020*
Thesis-based tuition fees (annual)	\$3,533.28	\$5,990.64	\$8,242.68	\$13,597.32
Continuing Fee (annual)	N/A	\$1,742.94	N/A	\$3,955.74
Course-based: 1.5-unit course	\$437.82	\$429.66	\$1,079.85	\$975.33
Course-based: 3-unit course	\$875.64	\$859.32	\$2,159.70	\$1,950.66
Course-based: 6-unit course	\$1,751.28	\$1,718.64	\$4,319.40	\$3,901.32
Audit fee (per 3 units)	\$437.82	\$429.66	\$1,079.85	\$975.33

表 1 通常の大学院プログラム学費一覧

*Students admitted to begin studies prior to May 2020: Students in PhD programs are assessed tuition fees until the term immediately following admission to candidacy (Spring/Summer are counted as one term). Once admitted to candidacy, students will be assessed the annual continuing fee. Students in thesis-based master's programs (excluding MBA and those listed in P.1.2.1 Graduate Program-Specific Fees) are assessed tuition fees for the first year. After the first year, annual continuing fees will apply.

出典：<https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/current/p-1-2.html>（2022年10月27日採取）。

¹⁰ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/understanding-graduate-studies>（2022年10月27日採取）。

カルガリー大学大学院学部の「2022-2023 年度カレンダー (Calendar 2022-2023)」¹¹によると、2022年5月を境に授業料等の額に変化が生じているようである。学位論文ベースの授業料をしてみると、カナダ人及び永住権保有者学生（以降「国内学生」）の学費は約 5,990 ドルから約 3,533 ドルと約 58%に、留学生の授業料は約 13,597 ドルから約 8,242 ドルと約 60%に、それぞれ減額されている。他方で両者の授業料を比べてみると、留学生の授業料は国内学生の約 2.3 倍と、留学生の方がかなりの高額になっている。これはトロント大学（平田, 2020a）やアルバータ大学（平田, 2023a）でも見られた傾向である。但し、アルバータ大学では近年、授業料が増額される傾向にあるが、カルガリー大学は逆に減額される傾向にある。それぞれの理由は定かではないが、いずれにせよ、留学生は国内学生に比してかなり高額の授業料を支払わなければならないことは共通した事実である。

表 2 は教育系大学院プログラムの授業料一覧である。ここでは、Ed.D.の学費は年単位で記載されているが、M.Ed.の学費は 3 単位ごとの表示となっている点は注意すべきである。減額傾向にある全学レベルと異なり、教育系大学院については 2020 年 5 月以前の入学者からそれ以降の入学者では微増あるいはほぼ横ばいとなっている。他方で、表 1・2 から授業料の額そのものを比較してみると、2020 年 5 月以降に限定した場合、例えば全学での学位論文ベース・プログラムの年間授業料は約 3,533 ドルだが、Ed.D.は約 13,103 ドルとなっており、Ed.D.の方が 3 倍以上高額になっている。また、カウンセリング修士 (Master of Counselling) プログラムの年間授業料は約 1,933 ドルであり、全学レベルの 5 倍以上である。またコースベース・プログラムの 3 単位分の授業料についても、全学レベルが約 875 ドルなのに対し、教育系プログラムは約 1,484 ドルと 1.5 倍以上となっている。つまり、教育系大学院プログラムの授業料の方が、全学レベルよりも押しなべて高額に設定されている。

表 2 教育系大学院プログラムの授業料一覧

	Canadian/Permanent Resident		International	
	Admitted to begin May 2020 or later	Admitted to begin prior to May 2020	Admitted to begin May 2020 or later	Admitted to begin prior to May 2020
Doctor of Education				
EdD Annual Tuition (12 months, years 1-4)	\$13,103.82	\$12,858.93	\$17,945.94	\$16,662.00
EdD annual continuing fee (year 5+)	\$4,719.00	\$4,630.86	\$6,459.54	\$5,997.78
Graduate Programs in				
<ul style="list-style-type: none"> • Master of Education • Master of Counselling • Bridge to Teaching • Graduate Certificates • Graduate Diploma 	\$1,484.76	\$1,457.01	\$1,613.16	\$1,457.01
tuition (per 3 units)				

¹¹ <https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/current/p-1-2.html> (2022 年 12 月 5 日採取)。

Master of Counselling, Education Psychology Program fee (annual)	\$1,933.12	\$1,896.98	\$2,100.32	\$1,896.98
---	------------	------------	------------	------------

出典：<https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/current/p-1-2-1.html> (2022年10月27日採取)。

3. 教育系大学院プログラムの概要

(1) 修士プログラム

カルガリー大学大学院学部のウェブサイト¹²において、「将来の学生 (Future Students)」のタブから「ワークランド教育スクール」の「修士号」を選択して検索すると、教育系大学院の修士プログラムとしては以下の8つが挙がってくる。即ち、①M.Ed.学際領域 (Interdisciplinary, コースベース), ②M.Ed.スペシャリスト (Specialist, コースベース), ③M.Ed.学校応用児童心理学 (School and Applied Child Psychology, コースベース), ④M.C. (Master of Counselling) カウンセリング心理学 (in Counselling Psychology, コースベース), ⑤M.A.教育学 (in Educational Research, 学位論文ベース), ⑥Master of Science (M.Sc.) カウンセリング心理学 (in Counselling Psychology, 学位論文ベース), ⑦M.Sc.学校応用児童心理学 (in School and Applied Child Psychology, 学位論文ベース), ⑧M.Sc.教育学 (in Educational Research, 学位論文ベース), の8つである。他方で「教育系大学院プログラム (Graduate Programs in Education)」のウェブサイト¹³で「現在の学生 (Current Students)」のタブから検索すると、「⑧M.Sc.教育学」以外の7プログラムが挙がってくる。そのうち「④M.C.カウンセリング心理学」のウェブサイト¹⁴では、「M.C.プログラムでは現在学生の募集は行っておりません」というメッセージが出てくる。また、同じく教育系大学院プログラムのウェブサイトの「将来の学生 (Future Students)」のタブには④と⑧以外の6プログラムの名称が挙がってくる。つまり現在は当該6プログラムのみが学生を募集しているということであろう。本稿は、カルガリー大学教育系大学院の出来るだけ多くのプログラムの概要を明らかにすることを目的としているため、④と⑧を含む8プログラムすべてを検討対象とすることとする。

① M.Ed.学際領域 (Interdisciplinary) —コースベース—

M.Ed.学際領域はコースベース・プログラムであり、1年目がステップ1「大学院サーティフィケート (Graduate Certificate)」, 2年目がステップ2「大学院ディプロマ (Graduate Diploma)」, 3年目がステップ3「M.Ed.学際領域 (M.Ed. Interdisciplinary Studies)」となっており、学位取得のためには最低3年かけてステップ順に要件を満たしていくことが求められる。ステップ1ではまず、表3に示す「学際領域トピック」からトピックを1つ選ぶことになる。それぞれのトピックは3単位の授業4つから構成されており、学生は1年かけてこれら4授業12単位を修得することが求められ、GPA3.0以上の場合に大学院サーティフィケートを得ることができ、またステップ2の大学院ディプロマへの申請資格を得ることができる。授業は対面方式、ブレンド方式 (対面+オンライン), 完全オンライン方式のいずれかであり、授業によって異なる。2年目のステップ2は、ステップ1とは別のトピックを1つ選び、当該トピック中の4授業12単位を1年以内に修得することによって大学院ディプロマを得ることができ、またステ

¹² <https://grad.ucalgary.ca/future-students/explore-programs> (2023年1月4日採取)。

<https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs> (2022年10月27日採取)。

¹³ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs> (2023年1月4日採取)。

¹⁴ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/current-students/programs/masters/Master-of-Counselling> (2023年1月4日採取)

ップ3に進むことができる¹⁵。

表 3 学際領域トピック

Advancing Healthy & Socially Just Schools & Communities	Collaborative Creativity for Social Innovation and Strategic Design
Community Engagement	Contemplative Ecological Education
Curriculum as Divergence	Dynamic Design in Education
Educational Neuroscience: Applications for Teaching & Learning	Foundations in School & Counselling Psychology
Inclusive Education	Indigenous Education: A Call to Action
Leading and Learning in a Digital Age	Leading with Heart
Learning Disabilities in the Classroom	Mental Health and Wellbeing in Schools: Social Justice in Practice
Multimodal Literacies Across Contexts	Niitsitapiisinni: Real Peoples' Way of Life
Perspectives pédagogiques : français langue seconde Pedagogical Perspectives: French as a Second Language	School Leadership - Pathway to AB Ed LQS Certification
Supporting and Enhancing Children's Mental Health	Teaching English as an Additional Language
Teaching and Learning Mathematics	Transdisciplinary Leadership: Strategy & Innovation in Organizations

出典：<https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-interdisciplinary> (2022年10月30日採取) を基に筆者作成。

以上のようにステップ1・2を修了した者のみ「調査イヤー (Research Year)」とされるステップ3に進むことができ、調査トピックの完遂に成功した場合に「M.Ed.学際領域」の学位を得ることができる¹⁶。このM.Ed.学際領域3年目のステップ3においては、1・2年目に選択した2つの専門領域(トピック)を活用し、実践課題を研究することになる。このステップ3が焦点を当てるのは調査であり、学生は先行研究の概念化(literature conceptualization)や内容分析(content analysis)、公的に利用可能なデータの二次分析を含む調査方法を用いる。

ステップ3では、1年を4期に分け、次のようにそれぞれの期に課されたタスクをこなしていくことになる。第1期である夏学期は、「Educational Research (EDER) 602 Program and Practice Evaluation」を履修することとされている。この授業の目的は、学術として、専門職業として、プロセスとして、そして広範囲にわたる教育的かつ社会的コンテキストにおける産物としての「評価」を理解することである。その際、第一次的なフォーカスは個々人の評価(生徒の学力測定や職員評価)というよりむしろ「プログラムの評価」に向けられる。第2期は秋学期であり、「EDER 600 Research Methodology in Education」を履修することになっている。この授業においては、教育調査における様々な課題、方法、技術につい

¹⁵ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-interdisciplinary> (2022年10月30日採取)。

¹⁶ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-interdisciplinary> (2022年10月30日採取)。

て学ぶことになっており、現代的な調査のコンテキストに関連する課題やジレンマ、調査戦略・方法・技術に焦点を当て、より深い研究のためのリサーチ・クエスチョンや調査方法を選択することができるよう受講者を支援することを第一義としている。受講者はまた、調査論文や報告書を批判的視点からアプローチするよう推奨される。第3期は冬学期であり、「EDER 604 Collaboratory of Practice」を履修する。

「コラボラトリー (collaboratory)」とは、アクティブな探究と専門職学習のソースとして活用される本物かつ現実世界の実践を構造的に経験する新しいネットワーク体系である。「実践のコラボラトリー」とは、実践のコミュニティとコラボラトリーという現代的調査における2つの重要な発展形を融合させることを示しており、受講者は現実世界の課題を調査し、それら課題のコンテキストに適した実践的解決策を創出し勧告する機会を与えられる。第4期である春学期は、「EDER 606 Writing Educational Research」を履修することになる。この授業の主要な開講意図は、学術論文の様々な構造を受講者に提示し、受講者による文書執筆を支援することである。この授業で許容されるペーパーとしては、想定される読者がアカデミックであろうとプロフェッショナルであろうと、また調査報告書であろうと理論的哲学的議論であろうと、明確に定義されたトピックや考えを採用し、それを現在の研究の中に位置付け、構造化された議論をもってそれをサポートするものでなければならないとされる。以上4つのステップを修得することにより、M.Ed.の学位を取得することができるようになる¹⁷。

M.Ed.学際領域の入学要件としては、GPAが3.0以上であること、4年制の学士号を取得していることあるいはそれと同等と判断されることはカルガリー大学大学院共通入学要件と同様であり、英語を第一言語としない場合英語能力テストの成績を提出することが求められるが、要求される点数は大学院共通要件よりも高く設定されている。即ち、TOEFL iBT の場合はアカデミック・バージョンで97点（共通要件は86点）、IELTS ではアカデミック・バージョンで7.0点（共通は6.5点）、CAEL の場合は70点（70点未満のコースがあってはならない）（共通では60点未満のコースがあってはならない）、ACC で各コースAスコア（共通ではB+）となっている。但し、授業や試験で使われる唯一の言語が英語である研究機関における3年以上の学士号か大学院学位保有者は、第一言語が英語ではなくとも上記要件を免除される。その他の申請書類としては、300語程度の志望理由書 (statement of intent)、推薦書2通の提出も求められる¹⁸。

② M.Ed. スペシャリスト (Specialist) –コースベース–

M.Ed.スペシャリストはコースベースの2年間プログラムである。修了要件単位数は36単位（12授業に相当）であり、学生はある特定の専門領域の授業を8つ、当該領域に関連する調査方法やプログラム評価、実践のコラボラトリー、調査の講読や執筆に関わる授業を4つ修める必要がある。授業の配信方法はブレンド方式あるいは完全オンライン方式である。ブレンド方式においてはプログラムが開始される第一期（夏学期）は対面で行われるが、第二期（秋学期）・第三期（冬学期）・第四期（春学期）はオンラインで行われる。完全オンライン方式においては、非同期型授業はオンライン学習プラットフォームである「Disire2Learn (D2L)」を、同期型（リアルタイム）授業はZoomを使って行われる。13週で構成される学期（秋・冬学期）では最大で5セッション、6週から成る学期（春・夏学期）は5セッション未満行われるのが典型例である。入学要件は、M.Ed.学際領域と同様である¹⁹。

¹⁷ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/research-step-three> (2022年11月4日採取)。

¹⁸ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-interdisciplinary/admission-requirements> (2022年11月4日採取)。

¹⁹ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-specialist> (2022年11月6日採取)。

M.Ed.スペシャリストのウェブサイト²⁰においては、2023年度入学者向けの専門領域として、「成人・コミュニティ・高等教育 (Adult, Community, and Higher Education)」と「学習のためのリーダーシップ (Leadership for Learning)」の2領域が提示されている。前者はブレンド方式を採用しており、営利あるいは非営利のコミュニティーベースの組織関係の成人教育者・実践家や、高等教育リーダー向けのプログラムであり、多様なセッティングで営まれている教育レベルの高い持続可能な成人学習コミュニティの開発を想像し支援する知識と能力を増大させるための先進的専門職教育や学習の機会を提供するものとされている。後者は完全オンライン方式で行われ、現在のあるいは将来のスクール・リーダーが効果的なリーダーシップを実行できるような能力やアプローチを探究・検討する領域である。

③ M.Ed.学校応用児童心理学 (in School and Applied Child Psychology) – コースベース

M.Ed.学校応用児童心理学はコースベースのブレンド方式プログラムであり、学校心理士 (school psychologist) として働く意思がある者や学校やコミュニティ・セッティングにおける応用心理学に関心のある者向けにデザインされている。カリキュラムとしては、心理学の基礎やアセスメント、インターベンション、コンサルテーション、学校心理学の実践と開発、統計調査方法といった領域におけるコア・コンテンツを含む17の授業から構成され、こうしたコア・コンテンツ領域は1200時間のインターンシップとしての学校やコミュニティにおけるフィールドワーク (field experience) によって補完される。これら授業の内容は、「アメリカ学校心理士協会 (National Association of School Psychologists: NASP)」が策定した認可ガイドラインに則っている。表4は17の授業名一覧である。平日の授業は就業している学生の利便性に配慮し、17:30–20:30の時間帯で行われている。修了までには大体3年かかるが、6年を上限に延長することもできる。また、当該プログラム入学者はすべて、犯罪経歴証明書 (Police Information Check) をインターンシップ開始前に提出しなければならない²¹。

表4 M.Ed.学校応用児童心理学授業名一覧

<p>1. Psychological Foundations</p> <p>EDPS 653 Professional Practice of School Psychology (includes 2 week on-campus residency)</p> <p>EDPS 687 Developmental Psychopathology</p> <p>EDPS 688 Cognitive & Affective Bases of Behaviour (elective)*</p> <p>EDPS 654 Neurobiological and Developmental Bases of Learning and Behaviour</p> <p>EDPS 650 Family and Social Bases of Behaviour (elective)*</p> <p>EDPS 681 Theory and Skills of Counselling</p> <p>EDPS 614 Ethics in Professional Psychology</p> <p>*Students have the option of completing one or both electives depending on their needs for licensure.</p>
<p>2. Assessment, Intervention and Consultation</p> <p>EDPS 652 Academic and Language Assessment</p> <p>EDPS 689 Cognitive Assessment</p> <p>EDPS 696 Social, Emotional, and Behavioural Assessment and Intervention</p>

²⁰ <https://werkland.ualgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-specialist> (2022年11月6日採取)。

²¹ <https://werkland.ualgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-school-applied-child-psychology> (2022年11月8日採取)。

EDPS 690 School-based Intervention and Consultation
3. Research and Program Evaluation
EDPS 601 Research Methods in School Psychology
EDPS 607 Fundamentals of Measurement
4. Field Experience Practicum
EDPS 697 Practicum in Academic and Cognitive Assessment
EDPS 676 Practicum in Social, Emotional, and Behavioural Assessment
5. Capstone Course
EDPS 684 Advanced Seminar in the Domains of School Psychology Leadership and Function in the Schools
6. Internship (1200 hours)
EDPS 698 Pre-Masters Internship in School and Applied Child Psychology

出典：<https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-school-applied-child-psychology> (2022年11月8日採取) を基に筆者作成。

入学要件としては、教育学あるいは心理学における4年制の学士号を有していること（それと同等と認められるものを含む）、GPA3.0以上、応募前に心理学あるいは教育学分野において30単位以上の授業を修得していること（評定はすべてB-以上であること）等が求められる。英語を第一言語としない場合英語能力テストの成績を提出することが求められるが、TOEFL, IITLS, CAELの点数はM.Ed.学際領域やM.Ed.スペシャリストと同様であるが、ACCのみA-とされている。その他、履歴書や推薦書2通、志望理由書の提出が求められることも同様であるが、志望理由書の語数が500語程度とされている。また、最も有望な申請者に関しては入学許可が出る前にインタビューが行われ、学校心理学領域に関する理解やその領域に入学する動機付け、及び口頭での言語能力が評価される²²。

④ M.C.カウンセリング心理学 (in Counselling Psychology) –コースベース–

M.C.カウンセリング心理学はコースベースのブレンド方式のプログラムであり、カウンセリング領域で幅広い専門的役割を果たし得る専門家の養成を目的として設置されている。プログラムは15のコースワーク（45単位分、うち2コース6単位分は実習）を3年間で修得するようデザインされている。3年間の履修スケジュールは表5に示すとおりである。1・2年目で12のコースワークを終えた後、最終年度である3年目に実習（EDPS 642と644）を行い、また専門領域に関する最終の個別プロジェクト（culminating independent project）である「Final Project Exit Portfolio」（EDPS 670）を修得することが修了要件とされている²³。この最終プロジェクトを履修するためには、併行して受講しているEDPS 644を除く13のコースワークを修得しておく必要がある²⁴。

表5 M.C.カウンセリング心理学修了までの履修スケジュール

	Year 1	Year 2	Year 3
Fall	・ EDPS 602 Counselling	・ EDPS 610 Research	・ EDPS 642 Counselling

²² <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/med-school-applied-child-psychology> (2022年11月8日採取)。

²³ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/current-students/programs/masters/Master-of-Counselling> (2023年1月4日採取)。

²⁴ <https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/grad/current/educational-psychology.html#46623> (2023年1月4日採取)。

	Theories and Professional Practice • EDPS 646 Processes of Learning	Methodology in Counselling • EDPS 630 Foundations of Career Counselling	Practicum I
Winter	• EDPS 604 Professional Ethics in Applied Psychology • EDPS 624 Cultural & Social Justice Issues in Professional Practice	• EDPS 648 Lifespan Human Development • EDPS 664 Psychological Approaches to Health	• EDPS 644 Counselling Practicum II • EDPS 670 Final Project Exit Portfolio
Spring/Summer	• EDPS 622 A&B Developing and Sustaining a Working Alliance with Clients • EDPS 626 A&B Group Interventions and Processes	• EDPS 616 A&B Assessment Theories and Practices • EDPS 638 A&B Counselling Interventions for Client Change	

出典：<https://werk.lund.ucalgary.ca/graduate-programs/current-students/programs/masters/Master-of-Counselling> (2023年1月4日) を基に筆者作成。

入学要件としては、当該領域において4年制の学士号を有していることあるいはそれと同等と認められること、GPA3.0以上、心理学あるいは教育心理学領域で最低9単位（「人的開発と学習 (human development and learning)」, 「ガイダンス・カウンセリングにおけるコミュニケーション・スキル」の領域における心理学あるいは教育心理学のコースを含む、成績はすべてB-以上でなければならない）を修得済みであることが求められる。その他の提出書類としては、履歴書、志望理由書（500語以下）、推薦状2通などがある。また、英語が第一言語ではない場合、TOEFL iBTで97、IELTSで7.0、CAELで70、ACCでA-等の英語能力テストでの成績が求められる²⁵。

⑤ M.A.教育学 (in Educational Research) –学位論文ベース–

M.A.教育学はカルガリー大学教育系大学院学位プログラムの中で唯一のM.A.学位プログラムであり、教育実践家向けプログラムではなく研究者養成プログラムである。研究者養成プログラムということもあり、学位論文の執筆が修了要件の一つとされており、就学形態は対面方式のみである。また、基本的にはフルタイムで2年間のプログラムであるが、4年まで延長可能であり、また最低1年は在籍しなくてはならない (residency requirement)。M.A.教育学プログラムには「成人学習 (Adult Learning)」, 「カリキュラム・学習 (Curriculum and Learning)」, 「言語リテラシー (Language and Literacy)」, 「リーダーシップ (Leadership)」, 「学習科学 (Learning Science)」の5領域があり、学生はいずれかの専門領域を専攻することとされている²⁶。修了要件とされるコースワークについては、5領域共通して求められるのは「EDER

²⁵ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/explore-programs/counselling-psychology-mc-course> (2023年1月4日採取)。

²⁶ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/explore-programs/educational-research-ma-thesis> (2022年11月8日採取)。

608 Research Methods in Education」及びその他の 600 レベルの学位論文のための調査方法に関する授業を 3 単位 (1 授業) であり、これら以外はコースごとに異なる。即ち、成人学習領域とリーダーシップ領域はそれぞれの領域で設定された授業から 12 単位、カリキュラム・学習領域と言語リテラシー領域は同様にそれぞれ 9 単位、学習科学領域は当該領域科目から 6 単位と他領域の科目から 6 単位を、それぞれ修得することが求められ、その上で修士論文を執筆する必要がある²⁷。入学要件は M.Ed.学際領域や M.Ed.スペシャリストとほぼ同様であるが、要求される GPA がこれら 2 領域はともに 3.0 であるが、M.A.教育学では 3.5 が求められている²⁸。英語を第一言語としない場合、英語能力テストの成績を提出することが求められるが、クリアすべき点数は M.Ed.学校応用児童心理学と同等である²⁹。

⑥ M.Sc.カウンセリング心理学 (in Counselling Psychology) – 学位論文ベース

M.Sc.カウンセリング心理学は、フルタイムの対面方式で実施される、調査を重視した学位論文ベースの修士プログラムであり、効果的な教育及びカウンセリング心理学サービスを提供することを望む者に対して、哲学や理論、調査や実践に関する専門性を開発するようデザインされている。当該プログラムの修了生の多くはアルバータ州心理士協会 (College of Alberta Psychologists)³⁰に登録しており、学校や中等後教育機関、コミュニティ機関、病院、その他の民間団体で職を得ていたり、博士課程に進学したりしている³¹。

当該プログラムを修了するためには、修士論文の執筆と 42 単位のコースワークを修める必要がある。表 6 は 42 単位分のコースワーク 13 授業の内容である。1 授業 3 単位であり、単純計算で 13 授業だと 39 単位であるが、「EDPS 640A/B Practicum in Counselling Psychology II」は 2 学期に亘って行われる 6 単位の授業であるため、合計すると 42 単位となる。

表 6 M.Sc.カウンセリング心理学授業名一覧

EDPS 600 Theories, Conceptualizations, and Interventions in Counselling Psychology I
EDPS 601 Theories, Conceptualizations, and Interventions in Counselling Psychology II
EDPS 609 Research Design in Statistics II
EDPS 614 Ethics in Professional Psychology
EDPS 615 Theoretical and Clinical Foundations of Assessment
EDPS 625 Cultural Influences on Professional Practice
EDPS 631 Theories of Career Development
EDPS 640A/B Practicum in Counselling Psychology II (6 units, 2 semesters)
EDPS 647 Practicum: Counselling Psychology I
One of: EDPS 611 Qualitative Research Methodologies or EDPS 618 Multivariate Design and Analysis
One of: EDPS 620: Psychological Assessment of Children and Youth or EDPS 617 Psychological Assessment of

²⁷ <https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/grad/current/gs-ma-msc-ed.html> (2022年11月8日採取)。

²⁸ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/explore-programs/educational-research-ma-thesis> (2022年11月9日採取)。

²⁹ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/master-arts-ma> (2022年11月11日採取)。

³⁰ アルバータ州心理士協会は、アルバータ州の心理士の規制団体であり、オンタリオ州の教員にとっての「オンタリオ州教員協会 (Ontario College of Teachers: OCT)」のようなものである。<https://www.cap.ab.ca/> (2022年11月11日採取)。

³¹ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/msc-counselling-psychology> (2022年11月11日採取)。

Adults
One of: EDPS 628 Theories and Applications of Child and Youth Therapy or EDPS 645 Indigenous Approaches to Therapy
One of: EDPS 627: Group Processes in Applied Psychology or EDPS 637: Relationship Counselling

出典：<https://werklund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/msc-counselling-psychology> (2022年11月11日採取) を基に筆者作成。

実習は2種類あり、一つは1年次の1学期間を費やして行われる100時間（うちクライアントとの接触時間（contact hours）の50時間を含む）の実習であり、もう一つは2年次に2学期分を使って行われるクライアントとの接触時間200時間トータルで400時間の実習である³²。すべての授業が毎年実施されているわけではなく、隔年開講の授業もあるため、授業履修・修得の順番は入学年度に左右されることもある。また、当該プログラム入学者はすべて、犯罪経歴証明書をプログラム開始前に提出しなければならない。これは当該プログラムが実習を必修としているためであり、他の心理学系プログラムにも共通する要件である³³。

当該プログラムへの入学要件としては、4年制大学の学士号とGPA3.0以上が必要なのは大学院共通の要件と同様であるが、教育心理学あるいは心理学における次の内容を含む授業を24単位分修得済みであることが求められる。即ち、①学部レベルの統計学の授業を1つ、②ガイダンス及びカウンセリングのコミュニケーション・スキル領域における学部最終学年の心理学あるいは教育心理学の授業を1つ、③認知心理学、社会心理学、行動の生物学的基礎（biological bases of behaviour）、個々人の心理学（psychology of the individual (e.g. abnormal psychology, developmental psychology, personality theory)）の授業をそれぞれ1つ、である。その他の応募書類としては、履歴書、志望理由書（500語未満）、学術関係者からの推薦書2通である。英語を第一言語としない場合、英語能力テストの成績を提出することが求められるが、クリアすべき点数はM.Ed.学校応用児童心理学と同等である³⁴。

⑦ M.Sc.学校応用児童心理学（in School and Applied Child Psychology）－学位論文ベース－

M.Sc.学校応用児童心理学は、研究あるいは臨床の領域で職を望む学生をトレーニングする「科学者－実践家モデル（scientist-practitioner model）」に基づいて構成されているプログラムであり、学位論文ベース・対面形式で提供される。修了するには、12の-halfコースと2つの実習を併せて14の-halfコース計42単位（1つの授業で3単位）の修得と修士論文の執筆が求められる。これら授業は、心理学的基礎、アセスメント、介入（intervention）、相談（consultation）、学校心理学の実践と開発、統計あるいは調査方法等をコアとして構成されている。修了までの期間は最短で2年、上限は4年とされており、典型的には2年から3年の間で修了する学生が多い。

コースワーク及び実習は、大要表7のように進められる。上述のコースベース修士学位プログラムである「M.Ed.学校応用児童心理学」と比較すると、12のコースワークのうち授業番号EDPS 614・650・653・654の4つは双方で必修とされている。表中の「Thesis」とは、学位論文執筆作業であり、指導教

³² 明示はされていないが、内容から判断すると、前者が表5中の「EDPS 647 Practicum: Counselling Psychology I」、後者が「EDPS 640A/B Practicum in Counselling Psychology II (6 units, 2 semesters)」であろう。

³³ <https://werklund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/msc-counselling-psychology> (2022年11月11日採取)。

³⁴ <https://werklund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/msc-counselling-psychology> (2022年11月11日採取)。

員の指導の下、定期的なミーティングを持つなどを通して行われる。実習はEDPS 662と663の2つであるが、双方とも200時間で構成されており、前者は診療所（クリニック）での、後者が学校での実習となっている。また、他の心理学系プログラムと同様、当該プログラム入学者はすべて、犯罪経歴証明書をプログラム開始前に提出しなければならない³⁵。

表7 M.Sc.学校応用児童心理学修了までの過程

Year 1:
Fall term EDPS 609 Research Design and Statistics II EDPS 614 Professional Ethics in Educational Psychology EDPS 653 Professional Practice of School Psychology EDPS 665 Cognitive Assessment and Intervention Winter term EDPS 651 Disorders of Learning and Behaviour EDPS 654 Neurobiological and Developmental Bases of Learning EDPS 669 Social-Emotional Assessment and Intervention EDPS 685 Child and Adolescent Counselling Spring term EDSP 659 Academic Assessment and Intervention Thesis Summer term Thesis
Year 2:
Fall term EDPS 618 Multivariate Analysis EDPS 662 Practicum I in School Psychology (Clinic Based) EDPS 683 Consultation in School Psychology Thesis Winter term EDPS 663 Psychology Practicum II (School Based) EDPS 650 Family and Social Bases of Behaviour Thesis Spring term Thesis Summer term Thesis

出典：<https://werklund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/msc-school-applied-child-psychology> (2022年12月7日採取) を基に、筆者作成。

³⁵ <https://werklund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/msc-school-applied-child-psychology> (2022年12月8日採取)。

入学要件としては、過去2年間で受けた授業の成績が GPA3.0 (あるいは B または 70%) 以上であり、心理学における優等学位を取得していることが望ましいこと、教育心理学あるいは心理学分野で、統計学関連の学士課程の授業1つと学士課程最終学年の *cognitive-affective bases of behaviour* における心理学あるいは教育心理学の授業1つを含む最低18単位を修得していること(成績はすべて B- 以上)であり、応募書類としては、推薦状を2通(1通は学士課程の指導教員から)、「入学前チェックリスト (pre-admission checklist)」³⁶(修得済み授業の詳細、実習経験、賞与、研究業績、調査経験、雇用歴などを含む文書)、履歴書、学校心理学に関する研究上及び専門職上の関心を記した志望理由書(500語程度)である³⁷。また、英語を第一言語としない場合、英語能力テストの成績を提出することが求められるが、クリアすべき点数は M.Ed. 学校応用児童心理学と同等である³⁸。

⑧ M.Sc.教育学 (in Educational Research) – 学位論文ベース

M.Sc.教育学は学位論文ベース・対面式のプログラムである。M.A.教育学と同様、「成人学習 (Adult Learning)」、「カリキュラム・学習 (Curriculum and Learning)」、「言語リテラシー (Language and Literacy)」、「リーダーシップ (Leadership)」、「学習科学 (Learning Science)」の5領域があり、成人学習領域とリーダーシップ領域はそれぞれの領域で設定された授業から12単位、カリキュラム・学習領域と言語リテラシー領域は同様にそれぞれ9単位、学習科学領域は当該領域科目から6単位と他領域の科目から6単位を、それぞれ修得することが求められるが、M.Sc.教育学の専門領域は「カリキュラム・学習」領域とされている。入学要件は M.A. 教育学と同様である³⁹。

(2) 博士プログラム

博士プログラムとしては、Ed.D. (Doctor of Education), Ph.D.教育学 (PhD in Educational Research), Ph.D.カウンセリング心理学 (PhD in Counselling Psychology), Ph.D.学校応用児童心理学 (PhD in School & Applied Child Psychology) の4つがあり、全て学位論文ベースのプログラムである⁴⁰。修士プログラムのように、「現在の学生」タブと「将来の学生」タブで違いはない。以下、それぞれの概要を見ていく。

① Ed.D. (Doctor of Education)

カルガリー大学の Ed.D. は、ブレンド方式で提供される学位論文ベースのプログラムであり、対象は K-12 や高等教育機関の教員や管理職、地域ベースの教育実践家、成人・生涯学習の実践家、保健関連の教育者、人的資源開発の専門家や職場学習のファシリテーター、カウンセラーやキャリア開発スペシャリスト、NPO 団体の指導者など多岐にわたる。そこで重視されるのが、自らのコミュニティにおいて調査に基づいた変革をリードする専門家を養成することであり、学生は働きながら新たなスキルを開発し、学術的言説に従事し、現場に根差した調査を実施することができる。

³⁶ 実物は次の URL からダウンロードできる。

https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwerkklund.ualgary.ca%2Fsites%2Fdefault%2Ffiles%2Fteams%2F19%2FAdmission_MSc_Pre-admission%2520Academic%2520Checklist_August%25202020.docx&wdOrigin=BROWSELINK

(2022年12月8日採取)。

³⁷ <https://werkklund.ualgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/masters/m-sc-school-applied-child-psychology> (2022年12月8日採取)。

³⁸ <https://werkklund.ualgary.ca/graduate-programs/future-students/application-process/how-apply#elpr> (2022年12月8日採取)。

³⁹ <https://grad.ualgary.ca/future-students/explore-programs/educational-research-m-sc-thesis> (2023年1月4日採取)。

⁴⁰ <https://werkklund.ualgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/doctoral> (2022年12月8日採取)。

プログラムは大要、コースワーク、候補者試験 (Candidacy Examination)、調査、学位論文の4つの要素からなる。修了までの期間の上限は6年間であり、最初の3年間はコースワークに従事することになる。Ed.D.プログラムのウェブサイト⁴¹においては、6つの専門領域が提示されているが、全ての領域で毎年新生を受け入れているわけではない。例えば、2022年度現在開講されている専門領域は、成人教育領域 (EdD in Adult Learning)、学習科学領域 (EdD in Learning Sciences)、K-12教育の上級リーダーシップ領域 (EdD in Senior Leadership in K-12 Education) の3領域であり、2023年度に開講予定なのがカリキュラム・学習領域 (EdD in Curriculum & Learning)、言語・識字領域 (EdD in Language & Literacy)、中等後教育におけるリーダーシップ・政策・ガバナンス領域 (EdD in Leadership, Policy and Governance: Leadership in Post-Secondary Contexts) である。

表8は、Ed.D.プログラム修了までのステップを示したものである。1・2年目はコースワークに従事することになっている。まず1年目は夏学期に2つの授業を修得することになるが、どの授業かは専門領域によって異なる。秋学期には上記専門領域共通して「EDER 711 Advanced Research Methodologies」を、冬学期には「EDER 712 Advanced Research Methodologies II」を、それぞれ修得することが求められる。2年目も同様に、夏学期には専門領域で異なる2つの授業を修得したうえで、秋学期は「EDER 707 Collaboratory of Practice I」を、冬学期は「EDER 708 Collaboratory of Practice II」を、それぞれ全専門領域共通で修得することとされている。3年目からは期限の6年目までの間であれば、自分のペースでコースワーク等を進めることができるが、注意しなければならないのは入学から28か月以内に「候補者試験」に合格しなければならない、ということである⁴²。「候補者試験」とは、1・2年目のコースワークを修了した後に取り掛かるもので、指導教員 (supervisor) や指導委員会 (supervisory committee) の指導の下研究計画書 (research proposal) を作成したうえで口述試験を受け、これに合格することが求められるものである。その上で実際の調査を行い、学位論文を執筆することができるようになる。つまり、Ed.D.の「候補者」となるための試験、ということである⁴³。「候補者試験」に合格した後に一連の学位論文執筆作業に入るが、その過程で秋学期開講の「EDER 709 Dissertation Seminar I」と、冬学期開講の「EDER 710 Dissertation Seminar II」を修得しなければならない⁴⁴。また、調査実施前に研究倫理審査を受け、調査実施の承認を受けることも求められる。その上で調査を実施し、学位論文を執筆し、口述試験を受けて合格すれば学位授与ということになる⁴⁵。

表8 Ed.D.プログラム修了までのステップ

Year 1	Year 2	Years 3-6
○ Summer (blended - face-to-face and online)	○ Summer (blended - face-to-face and online)	The work completed in years 3-6 depends on your pace. Students

⁴¹ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/doctoral/edd-doctor-education> (2022年12月8日採取)。

⁴² <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/doctoral/edd-doctor-education> (2022年12月8日採取)。

⁴³ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/current-students/student-resources/candidacy-dissertation> (2022年12月8日採取)。

⁴⁴ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/doctoral/edd-doctor-education> (2022年12月8日採取)。

⁴⁵ <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/current-students/student-resources/candidacy-dissertation> (2022年12月8日採取)。なお、博士学位論文の執筆及び審査のプロセスについては、次のURLを参照されたい。<https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/current-students/student-resources/candidacy-dissertation> (2023年1月4日採取)。

<p>Two Specialization courses (Please visit your specialization page for details)</p> <p>○ Fall (fully online) EDER 711 Advanced Research Methodologies</p> <p>○ Winter (fully online) EDER 712 Advanced Research Methodologies II</p>	<p>Two Specialization courses (Please visit your specialization page for details)</p> <p>○ Fall (fully online) EDER 707 Collaboratory of Practice I</p> <p>○ Winter (fully online) EDER 708 Collaboratory of Practice II</p>	<p>have up to six years to complete their EdD program.</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Candidacy Candidacy must be completed within 28 months from the program start date. ● Dissertation Your dissertation is the focus of your degree program. Students enrol in Dissertation Seminar once you have successfully completed your candidacy exam and have begun to work on your dissertation. Dissertation Seminar is offered every fall and winter term. <p>○ Fall Terms (fully online) EDER 709 Dissertation Seminar I</p> <p>○ Winter Terms (fully online) EDER 710 Dissertation Seminar II</p>
--	--	---

出典：<https://werk.lund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/doctoral/edd-doctor-education>
(2022年12月8日採取)。

Ed.D.プログラムへの入学要件としては、次の事項が挙げられている。

- 適合する領域におけるコースベースあるいは学位論文ベースの修士号を取得していること。
- 修士課程での GPA が 3.50 以上であること。
- 500 語程度の志望理由書。但し、以下の事項について記入すること。
 - ・ 博士課程進学の原因
 - ・ 研究の関心と志望する専門領域とがどのように関連するのかの説明
 - ・ 調査、教育、リーダーシップに関する経験や出版、受賞歴などの記述
- 専門領域における関連する実践経験を有することが望ましい。
- 推薦状 2 通。
- 履歴書。
- 第一言語が英語ではない場合、次のような各種英語能力テストの結果。但し、教授言語が英語のみの高等教育機関の 3 年以上の学士号あるいは大学院学位を有している場合は、免除される。
 - ・ Test of English as a Foreign Language (TOEFL ibt) score of 97 overall (Academic Version)

- ・ International English Language Testing System (IELTS) score of 7.0 overall (Academic Version).
- ・ Canadian Academic English Language test (CAEL) score of 70 (no less than 70 in each section).
- ・ Academic Communication Certificate (ACC) score of A- in each course.

また、要件ではないが、「アドミッション・ポートフォリオ (Admission Portfolio)」の提出も推奨されている。アドミッション・ポートフォリオは入学前の実績をまとめたポートフォリオである。その目的は受験者が当該博士プログラムに入学する適格性を有していることを示すことであり、特に学位論文ベースではない修士プログラムの修了者にとっては重要な文書となる。アドミッション・ポートフォリオには、次のものをまとめておくことが求められる。

- a) 学位論文 (ある場合)
- b) 報告書
- c) 調査補助金あるいは奨学金
- d) 論文
- e) カリキュラム文書
- f) 非印刷物 (マルチメディア等)
- g) 関連する過去の学習に関する証拠 (次事項参照)
- h) 調査スキルや意図が記載されている文書

また、「関連する過去の学習に関する考慮 (Relevant Prior Learning Considerations)」がなされる場合があり、例えば例外的に、学術的要件は満たさないが重要な実績のある受験者については、入学許可が出されるかどうか検討される場合がある。この場合、受験者は、提示されたプログラムの実施に成功する潜在能力を例証する証拠を教育系大学院 (Graduate Programs in Education) に提出しなければならない。当該受験者は受験時より早めに教育系大学院に連絡し、応募書類の一部として次のような追加的資料を提出することが求められる。

- a) 個人的な継続教育の証拠
- b) 上記継続教育の結果
- c) 志望する学位に関連する領域における経験
- d) 人的管理や資源・財政・状況の管理に成功した証拠
- e) 志望する学位に関連する組織における責任ある地位に就く機会の増加
- f) 職務に関連する生産物
例) 報告書, 学習・訓練プログラム, ハンドブック, ビデオ, マニュアル, ワークショップ, セミナーなど
- g) 知識や理解, 管理スキル, 知的資源における個人的成長の証拠
- h) イノベーションの証拠
- i) リーダーシップや調整責任の証拠

すべての大学院プログラムにおいて、入学許可を得ることは限られた収容能力のために非常に競争的

であり、最低限の要件を満たしたことは入学許可を保障するものではないとされている⁴⁶。

② Ph.D.教育学 (PhD in Educational Research)

Ph.D.教育学は対面式で提供されるプログラムであり、学生には最初の2年間はフルタイムで在籍し、日中は大学のキャンパスで授業に出席したり教員からの指導を受けたりすることができるような条件を整備しておくことが求められる。専門領域としてはM.A.教育学と同様、「成人学習」、「カリキュラム・学習」、「言語リテラシー」、「リーダーシップ」、「学習科学」の5領域があり、学生はいずれかの専門領域を専攻することされている。修了するためには、定められたコースワークを修得したうえで候補者試験に合格することで、まず学位論文に取り掛かる資格を得ることになる。その上で学位論文のための調査を実施し学位論文を執筆したうえで、論文審査委員会の承認を得て口述試問を受け、合格することが要件とされている。入学から候補者試験合格までは、28か月以内に終えなければならず、修了までには大体4年、最大限で6年かかるとされている⁴⁷。

修了までに要求されるコースワークは、上記5領域に共通のものとして「Educational Research 700 Seminar for First-Year Doctoral Students」がまず挙げられており、その他に「EDER 707-712」を除く調査方法に関する700レベルの学位論文ベース向けの授業を9単位とる必要がある。それ以外のコースワークについては各領域で異なっており、成人学習領域は当該領域に関する授業を6単位、その他の領域はそれぞれの領域に関する授業をそれぞれ9単位修得することが求められる⁴⁸。

Ph.D.教育学への入学要件としては、適合する領域における学位論文ベースの修士号を有していること（学位論文ベースではない修士号であっても顕著な能力があると認められる場合は、入学許可が検討される場合もある）が挙げられており、この点のみ原則としてコースベース修士でも要件を満たすことになる。Ed.D.プログラムと入学要件が異なっている。その他の事項については同様である。また、アドミッション・ポートフォリオについても、同様である⁴⁹。

③ Ph.D.カウンセリング心理学 (PhD in Counselling Psychology)

Ph.D.カウンセリング心理学は科学者兼実践家 (scientist-practitioner) モデルのトレーニングに沿って、対面式のみで提供される学位論文ベースのプログラムであり、二年間は在籍する必要がある。同プログラムのトレーニングは、カナダ心理学会 (Canadian Psychological Association) 理事会 (Bord of Directors) により承認されたカウンセリング心理学の定義に基づいて実施される。修了に至るまでの要件としては、コースワーク、候補者試験、インターンシップ、学位論文が挙げられる⁵⁰。コースワークとしては24単位分 (8授業分) が課されており、「Educational Psychology 704 Advanced Research Seminar in Counselling Psychology」と600-700レベルの調査方法に関する授業を1つ (3単位分)、「Educational Psychology 711 Program Evaluation and Consultation」と「Educational Psychology 731 Advanced Clinical Supervision in Applied Psychology」、実習コースとして:「Educational Psychology 742 Advanced Practicum in Counselling」と「Educational Psychology 743 Advanced Practicum in Psychological Assessment」等を含むものとされて

⁴⁶ <https://werkland.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/doctoral/edd-doctor-education/admission> (2023年1月4日採取)。

⁴⁷ <https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/grad/current/gs-eder-doctor-of-philosophy.html> (2023年1月4日採取)。

⁴⁸ <https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/grad/current/gs-eder-doctor-of-philosophy.html> (2023年1月4日採取)。

⁴⁹ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/explore-programs/educational-research-phd> (2023年1月4日採取)。

⁵⁰ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/explore-programs/counselling-psychology-phd> (2023年1月4日採取)。

いる⁵¹。インターンシップは1年のフルタイムか2年のハーフタイムで、臨床的環境で実施される。学生はインターンシップ開始前に、「犯罪経歴証明書」を提出しなければならない。学位論文の審査プロセスは、他の博士プログラムと同様である⁵²。

入学要件としては、カウンセリング心理学分野で学位論文ベースの修士号を有していることが挙げられるが、それは次の要件を満たしていることとされている。即ち、登録心理士（registered psychologist）の指導下での最低400時間（そのうち200時間は直接依頼人との接触があること）を含む500時間の実習を実施済みであること、一般心理学の歴史的及び科学的基礎に関する授業を学部最終学年（senior undergraduate）あるいは大学院で1つ修得していること、「行動の生物学的基礎」・「行動の認知影響的（cognitive-affective）基礎」・「行動の社会的基礎」・「個人的行動」における授業を学部最終学年で2つあるいは大学院で1つ修得していること、等である。その他に、職歴やボランティア経験に関する情報を含む履歴書、500語以下の志望理由書、推薦状3通（学術的観点で記載された推薦状2通（そのうち1名は受験者の修士論文指導教員であるか受験者の修士論文の内容に詳しい教授であることが望ましい）と受験者に臨床的指導を行った者（実習指導教員等）からの推薦状を1通）、入学前チェックリスト（Pre-Admission Checklist, 学歴や学位論文タイトル、これまで受講した講義のタイトルなどの一覧表）の提出が求められる。修士課程でのGPAが3.50以上であることや、英語を第一言語としない場合に求められる各種英語能力試験の点数は、Ed.D.と同様である⁵³。

④ Ph.D.学校応用児童心理学（PhD in School & Applied Child Psychology）

Ph.D.学校応用児童心理学は、心理学と教育双方の堅固な科学的基礎を用いて広範にわたる応用的な環境においてすべての年齢層の学習者の成果を高めることのできる心理士の養成をミッションとしており、プログラムはカナダ心理学協会の認可基準に沿って構築されている。修了生は、大学等の高等教育機関を初め、調査機関、NPO、非政府のコミュニティ機関、病院等において研究あるいは調査に従事することが想定されている⁵⁴。

修了までには、大要次の5つの要件を満たす必要がある。即ち、コースワーク、候補者試験、学位論文、実習、インターンシップである。コースワークとしては33単位分の授業を修得する必要があるが、そこには次の7つの授業（21単位）を含むこととされている。即ち、「Educational Psychology 711 Program Evaluation and Consultation」、 「Educational Psychology 731 Advanced Clinical Supervision in Applied Psychology」、 「Educational Psychology 732 Advanced Seminar in School and Applied Child Psychology」、 「Educational Psychology 760 Evidenced-Based Consultation for Intervention」、 「Educational Psychology 762 Advanced Neuropsychological Assessment and Intervention」、 「Educational Psychology 763 School- and Clinical-based Interventions」、 「Educational Psychology 764 Advanced Research Statistics」である。また、実習についても、「Educational Psychology 761 Advanced Doctoral Practicum in Clinical Assessment and Supervision」と「Educational Psychology 766 School-Based Practicum」のいずれかあるいは両方を含む12単位分を履修し、修得する必要がある。このプログラムの実習は、ワークランド教育スクール内にある診療所である「統合教育サービス（Integrated Service in Education: ISE）」で実施される。ISEは「CPA財

⁵¹ <https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/grad/current/gs-apsy-counselling-phd.html>（2023年1月4日採取）。

⁵² <https://werkund.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/doctoral/counselling>（2023年1月4日採取）。

⁵³ <https://www.ucalgary.ca/pubs/calendar/grad/current/gs-apsy-counselling-phd.html>（2023年1月4日採取）。

⁵⁴ <https://grad.ucalgary.ca/future-students/explore-programs/school-and-applied-psychology-phd>（2023年1月5日採取）。

団 2009 年革新的心理学サービスへのアクセス賞 (the Canadian Psychological Association Foundation 2009 Access to Innovative Psychological Services Award) を授与された, 診療サービスや専門性開発, 応用調査/プログラム評価を提供する心理学サービスにおける国内リーダーとして認識されている機関とされている。インターンシップは 1 年間 (1600 時間) にわたり, ほとんどは大学外部の教育委員会やコミュニティ機関, ヘルスセンター等で行われる。実習やインターンシップに際して「犯罪経歴証明書」の提出が求められるのは, その他の臨床系学位プログラムと同様である。また, 候補者試験や学位論文審査のプロセスについては, 他の博士プログラムと同様である⁵⁵。

入学要件としては, 学校応用児童心理学分野で学位論文ベースの修士号を有していることが挙げられているが, Ph.D. カウンセリング心理学のようにそこに 500 時間の実習を含むことという条件はない。他方で, 「行動の生物学的基礎」・「行動の認知影響的 (cognitive-affective) 基礎」・「行動の社会的基礎」・「個人的行動」における授業を学部最終学年で 2 つあるいは大学院で 1 つ修得していることが要件とされているのは Ph.D. カウンセリング心理学と同様であるが, Ph.D. 学校応用児童心理学では修得に加えてこれら授業すべてで B- 以上の評定を得ていることを条件にしている。GPA が 3.50 以上であること, 入学前チェックリストや履歴書, 推薦状 3 通, 英語を第一言語としない場合に求められる各種英語能力試験の点数は, Ph.D. カウンセリング心理学と同様である⁵⁶。

おわりに

以上, カルガリー大学教育系大学院の修士及び博士学位プログラムの概要を見てきた。全体的な傾向として大まかに言うと, 次のような特徴が指摘できるだろう。第一に, 教育学あるいは心理学に特化されたプログラムとなっており, アルバータ大学など他の教育系大学院では見られた教科教育学系のプログラムは, ウェブサイトを見る限りでは見られないことである。第二に, 教育学系あるいは心理学系と言っても, 学位の種類が修士で M.Ed. が 3 つ, M.Sc. が 3 つ, M.A. と M.C. が 1 つずつであり, また M.Sc. 教育学という学位プログラムが M.Ed. とは別にあること, 学校応用児童心理学領域のプログラムが M.Ed. 及び M.Sc. 双方にあること, 同様にカウンセリング心理学のプログラムが M.C. 及び M.Sc. 双方にあることなど, 実に多様なプログラムが用意されている。M.A. と M.Ed. は, それが研究者養成であるのか実践家養成であるのかで分類可能であるが, それ以外のプログラム, つまり M.Ed. と M.Sc. 教育学, M.Ed. 学校応用児童心理学と M.Sc. 学校応用児童心理学, M.Sc. カウンセリング心理学と M.C. カウンセリング心理学はそれぞれどう異なるのかを検討することは, 大変興味深い。しかし, 本稿はカルガリー大学教育系大学院各プログラムの諸特徴を明らかにすることが目的であって, プログラム間の比較考察をする紙幅上の余裕がないこと, また特に心理学系についてはその異同を判断する専門性が筆者にはないこと等により, それらの考察は別の機会に委ねたい。他方で, 博士プログラムの方は, Ed.D. と Ph.D. 教育学は修士における M.Ed. と M.A. の違いと平行であることは確認できたし, Ph.D. カウンセリング心理学と Ph.D. 学校応用児童心理学は双方ともに心理学系であるが細分化された領域は異なるということ, 但し双方ともに研究者養成を視野に入れているという点で同一であることなど, 修士プログラム程は学位と学問領域が複雑に入り組んでいるわけではないことが分かった。

大元に戻ると, 本稿を含む本プロジェクトの第一義的目的は, カナダの大学院における M.Ed. と Ed.D. のあり様を詳細に検討することである。その点に鑑みると, 上述したカルガリー大学教育系大学院の諸

⁵⁵ <https://werkland.ucalgary.ca/graduate-programs/current-students/programs/doctoral/phd-school-applied-child-psychology> (2023 年 1 月 5 日採取)。

⁵⁶ <https://werkland.ucalgary.ca/graduate-programs/future-students/programs/doctoral/school-applied-child> (2023 年 1 月 5 日採取)。

学位プログラム相互の異同について検討することも筆者の今後の課題に含まれるが、本稿が校了した後に筆者が取り組むべき第一の課題は、本稿で見た各種 M.Ed.プログラムと Ed.D.プログラムの詳細を明らかにすることと設定すべきであろう。それは続稿で行うこととする。

【参考文献】

- ・ 平田淳 (2020a) 「トロント大学オンタリオ教育研究所 (Ontario Institute for Studies in Education of the University of Toronto: OISE/UT) における研究科と学位プログラムの制度設計」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第4巻, 110—127頁。
- ・ 平田淳 (2023a) 「カナダ・アルバータ大学教育系大学院学位プログラムの諸特徴」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第7巻, 53—66頁。

【附記】

- ・ 本稿は、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) (基盤研究 (C) (一般)) 「JSPS 科研費 JP18K02283」の研究成果の一部である。

(2023年1月31日 受理)